

【豊橋市会場】

1. 開催日時・会場

- ・ **日時** 平成14年11月30日（土）13：30～15：30、曇り
- ・ **会場** 豊橋市民センター 多目的ホール

2. 出演者構成

- ・ **コーディネーター**
金子 鴻一（社団法人東三河地域研究センター常務理事）
- ・ **地域づくり代表者**
伊藤 孝人 （豊橋市在住）
大貝 彰 （豊橋市在住）
菊地 啓一 （豊橋市在住）
竹本 章 （宝飯郡音羽町在住）
富田 真知子（豊橋市在住）
宮川 直樹 （渥美郡渥美町在住）
- ・ **行政職員**
元野 一生 （中部地方整備局企画部技術企画官）
開口 進 （中部運輸局企画振興部次長）
青野 勤 （愛知県東三河建設事務所長）
- ・ **聴講者**
計98名（男性89名、女性9名）
- ・ **会場風景**



3. 会議録

司会 ただいまから「まんなかビジョン討論会」を開催させていただきます。私は、進行役を担当します国土交通省中部地方整備局の船戸です。さて、国土交通省では、国民の皆様との対話型行政を進めていますが、これからの中部ブロックの地域づくりの基本方針とる「まんなかビジョン」づくりにおいても地域の意見を積極的にお聞きすることにしていきます。「まんなかビジョン討論会」は、地域の意見を伺う場として、中部4県の計8カ所で討論会を進めています。本日は7カ所目の開催となりますが、地域の実状を踏まえた、実りある討論会にしたいと考えますので、皆様よろしくお願ひいたします。それでは、ビジョン討論会に先立ち、主催者を代表して中部地方整備局技術企画官の元野よりご挨拶を申し上げます。

元野 中部地方整備局企画部の技術企画官の元野です。「まんなかビジョン討論会」の主催者を代表して、ご挨拶申し上げます。本日は「まんなかビジョン討論会」に多数のご出席を賜り、ありがとうございます。本日のコーディネーターは、社団法人東三河地域研究センターの金子鴻一常務理事に願ひしています。また、発言者の方々は、豊橋市、渥美町、音羽町で、経済界や地域づくりで活躍中の6名の方にご出席いただきました。また、行政側からは、国土交通省2名、愛知県1名が参加しております。

「まんなかビジョン」の目的及び策定経緯についてご説明します。21世紀の地域社会を、持続ある、元気のあるものとするためには、内外の社会環境を十分認識した上で、地域のポテンシャルを最大限発揮していくことが必要になっていきます。このため、地域全体で共有できる地域づくりの目標、いわゆるビジョンを持つことが非常に大切であると考えています。現在、中部ブロックでは、東海4県、名古屋市、及び国土交通省、地元経済界が協働で中部ブロック全体の目指すべき方向を提案する「まんなかビジョン」の策定を進めています。また、国民的な議論を深めるために、8月末に中間取りまとめを発表しました。

本日の「まんなかビジョン討論会」の目的は、中部地方の未来について、地域の皆様とどのような目標を持って地域づくりを進めれば良いのかというテーマで議論を深めたいと考えます。忌憚のないご意見、ご提案をいただき、地域全体で共有できるビジョンにしたいと考えますので、よろしく願ひします。

司会 ここからの進行は、社団法人東三河地域研究センター常務理事の金子様にコーディネーターを願ひします。よろしく願ひします。

金子 それでは、「まんなかビジョン討論会」を始めたいと思います。「まんなかビジョン」は、伊豆半島から諏訪湖、北は高山、西は三重というように、非常に広域な地域を扱います。計画とは言え、その前のビジョンですが、この非常に広域な地域について意見を言うことになります。それでは、発言者の方の自己紹介を願ひします。

伊藤 豊橋市豊清町の伊藤です。私は、豊橋市農業経営士協会の一員として、農業者の観点から参加しました。農業経営士協会は、地域農業の振興と農業後継者の育成・指導を行う農業団体であり、県内約822名、東三河、豊橋・渥美・豊川・宝飯に250名ほどの会員がいます。この地域の農業にどのような観点から取り組んで行くと良いか、皆さんから活発な意見をお聞きしたいと思います。

大貝 豊橋市の大貝です。豊橋技術科学大学で都市計画の研究をしていますが、今日は豊橋市民の立場で発言したいと思います。現在、色々な形で豊橋市のまちづくりに関わっており、中心市街地の活性化に向けて、商店街の空き店舗を借りて学生と一緒にまちづくりの支援活動をやったりしています。今日は、主にまちの中心の再生について発言したいと考えています。なかなか広域に対する意見は言えないので、それぞれ地域地域の意見や課題をお話ししたいと思います。

菊地 豊橋市富士見台の菊地です。フォルクスワーゲングループ・ジャパンに勤務しています。今日は、企業と豊橋市民の両面から話したいと思います。私達の会社は、10年前に東京都港区から本社を移しました。現在、社員が約320名です。当時、100人が豊橋へ東京から引っ越しましたが、現在単身赴任者は10名未満で、ほとんど豊橋に定住しています。私は、豊橋本社移転の1年半前から、豊橋事務所所長として移転に関わりました。簡単に言えばこの地域の特性を生かして、豊かで住みよい地域になれば良いと思っています。よろしくお願いします。

竹本 宝飯郡音羽町の竹本章です。トヨタ系のデンソーに40年間勤務し、退職後、国土交通省の生き生きモニターに応募して目下国土交通省関係の勉強中です。道路交通網とか運輸面の合理化が向上することを期待して、今日は参りました。よろしくお願いいたします。

富田 豊橋市花田町の富田です。できれば歩いて暮らせるまちに豊橋市がなると、私も楽かなと思っています。今は、まちづくりのグループに入って、できることは何かと模索しています。

宮川 渥美町の宮川直樹です。豊橋信用金庫に勤務していますが、地元の6つのNPOで活動しています。免々田川のホテルを守る会を作ったり、9月にはNPOネットワークを地元で作りました。NPOの立場で発言したいと思います。地域については、あまり広い所では無く、自分の住んでいる地域、コミュニティーベースの地域が、楽しく暮らしていける場所になると良い。そのためには、色々地域の住民たちが一生懸命考えて、まちのために地域づくりをして行くというようなまちになると良いと思います。

青野 名古屋から参りました。愛知県の東三河建設事務所に勤務しています。東三河建設事務所では、東三河地域の社会資本整備を中心に道路、港湾、河川の整備を担当しています。

開口 中部運輸局の開口です。企画振興部に所属しています。本日は、皆様の忌憚のないご意見を聞きながら、これからの業務の参考にしてまいりたいと考えております。

元野 中部地方整備局の企画部で技術企画官をしています。日本には、2つの成長のエンジンが欠けていると言われています。1つは、国際的な競争力を持つエンジン。もう1つは、国内の健全な消費マーケットをどう作るのかというエンジンです。国際的な競争力を持つためには、地域の国際化や産業の国際競争力の強化などが必要だと思います。さらに、中部は関西と関東の大動脈を結ぶ地域です。その観点から、大動脈の強化が非常に大切だと考えています。もう1つの国内の健全な消費マーケットをどう作るのかという問題については、東三河地域の農業・農村振興問題、中山間地の魅力向上、観光や地産地消などを活かした観光の振興などが考えられます。ま

た、少子・高齢化に伴う高齢者、女性、子供、いわゆる社会的弱者に対するバリアフリー化の進め方について考えなければいけない。中部が日本の他地域や東アジアから憧れを持たれるような、ブランド化できるような地域になるためにはどうしたら良いのかを考えたいと思います。

金子 ありがとうございます。それでは、発言者のご意見を伺いたと思います。但し、こんな広い地域のことを一挙に考えるのは難しいので、1 回目の発言では身近に、今活動されていることのご紹介と、そこでの問題点などについてご発言いただきたいと思います。

伊藤 愛知県は、工業、商業、農業、その他数多くの業種が入り組んだ県ですが、農業分野においても先進的な役割を果たしています。地域的にも日本の中心に位置しており、物流の拠点としても非常に恵まれた所だと思います。渥美半島を中心に豊橋から浜松、西遠地方までを見ると、これからは水と空気、生活環境に対して、地域として一体に取り組んでいけたら、我々の農業も活性化を見出せ、また、これからの日本の農業を背負って立つ若い後継者にも良い影響を与えられると思います。

水の問題は、豊川をはじめとする用水や生活面での用水が、環境に大きく影響すると思います。また、道路整備が進む反面、排気ガス問題をどう解決するのか。また、国道 1 号線は、交通事故が非常に多く、県内でも特に東細谷町、一里山は死亡事故が非常に多くなっています。国土交通省としては、地元で生活している住民の不安を取り除くために、まず国道 1 号線に代わる方策を検討して欲しいと思います。

金子 日本の中央立地特性、また、農業という意味合いも含めた用水問題、それから、日常生活、道路に係る安全、生活環境問題と、3 つのご指摘をいただきました。

大貝 中心市街地の活性化についてお話ししたいと思います。2 年ほど前から、まちづくりの NPO の方たちと一緒に、豊橋市の商店街の空き店舗を借りて、そこを拠点に中心市街地の活性化に向けた色々な活動をしています。また、4 年以上前から豊橋の二川で住民参加のまちづくりに関わっています。

中心市街地の活性化については、豊橋市も基本計画を作り、何とかしようとしています。中心市街地活性化問題は、1970 年代から 30 年もの長い間に起こってきた現象であり、これを簡単に本質的に変えることは難しい。市民の皆さんからすると、何故中心市街地を活性化する必要があるのか疑問だと思います。その辺の市民の意識がなかなか変わらないために、中心市街地に公共投資をすることに対する意思統一ができないことが、一つ大きな問題だと思います。市民の皆さんが、中心市街地を大事に思う、みんながまちに来ることが必要だという認識ができていないというところが一番根本にあると思います。

そういう中でも、我々は一生懸命中心市街地の活性化について地元の皆さんと一緒に勉強したり、色々なイベントを行ったりして活動をしています。そういう場に参加される方々はすばらしい考えを持っているし、おそらく今日来られている方もすばらしい意見を持っていると思います。しかし、個人個人はすばらしい意見を持っていますが、その意見をまとめて具体的な活動に反映させていく仕組みがまだまだ十分ではないところに最大の問題がある。最近、ボランティアや NPO として地域の皆さんがまちづくりに関わることが多くなりましたが、まだまだ十分ではないし、そういう NPO とかボランティア的な活動を支える仕組みがまだまだ十分でないことが、一番の問

題だろうと考えています。

金子 計画を作ったり活動したりするときに、そのこと自体に対する市民の合意をどう作るのか。その仕組みが問題ではないかというご指摘かと思います。ありがとうございました。

菊地 私達の会社は豊橋に立地するに当たって、十数年前、全国で候補地を探しました。具体的には、北海道の苫小牧、本州では日立、鹿島、千葉、横浜、焼津、豊橋、名古屋、大阪、神戸などを候補地に検討しました。豊橋に立地した理由の一つは、中部地区が日本の地理的な中央に位置しているということ。そして、国内主要販売地域への供給に支障がないということです。その他にも、関東圏に比べて土地が安い、港が非常に便利で工場と陸揚げ基地が近い、また雪が少ない気象もありました。経済的には苫小牧がかなり有利でしたが、日本の関東・関西の中心にある中部地区ということで非常に有利だったわけです。

10 年前に本社を東京からすべて豊橋に移して活動して来ましたが、本社を移して 4、5 年たってから、東京にまた事務所を借りて少しずつ人を戻しているというのが現状です。何故かという、やはり企業にとって東京の比重があまりにも大きいということです。特にマスメディアがほとんど東京に集中しており、広報活動が重要な会社にとっては東京とのコンタクトが非常に重要になるわけです。世界的規模で考えれば、豊橋は全く問題無く、例えばドイツ本社とはコンピュータ、テレビ会議で繋がっており、時差が 7、8 時間あることを除けばほとんど問題なく仕事ができます。しかし、東京にこれだけすべてが集中していると、日本の地方都市ではやはりデメリットを感じざるを得ないというのが現状です。10 年前には、東京へ行くのに浜松で「ひかり」に乗り換えられる非常に良い便があったのですが、「のぞみ」が走りだしてから、その接続が出来なくなり、10 年前に比べると東京がむしろ遠くなったという印象です。

但し冷静に考えれば、何故これほど東京に一極集中しなければいけないのか。これは本当に正常なのか、まともなのかということを考えなければいけないと思います。東京一極集中の問題以外には、日本の流通コストが非常に高いことが、企業活動にとって大きな障害になっています。具体的には、ドイツから名古屋までのコンテナ 1 本当たりの輸送コストよりも、名古屋から豊橋までの 1 本当たりの輸送コストの方が高いのが現状です。そういう状況下で我々は活動しているのです。

中部は、どうしても名古屋が中心になりますが、中部圏全体の利益を考えれば、例えば豊橋と岐阜羽島への「ひかり」の停車本数を増やしてもらうことなどを考えるべきだと思います。

金子 ありがとうございました。この地域が色々な意味で非常に立地条件が良いということ、その立地条件を活かした施策を進めるべきだということ。立地条件の良さを計画者や地域の人は本当に理解しているのかという指摘もあったような気がします。

竹本 私は、モノづくりに 40 年間携わってきました。それ故に、物流のスピードが非常に重要な問題であると思っています。私の住む音羽町には、国道 1 号線と東名高速、新幹線、JR 在来線、名鉄と、5 本の交通機関が通っています。もしそれが何かの事故で止まれば、中部の交通が全部麻痺してしまうほど、きわめて狭い範囲に集中しています。

東名高速が集中工事の時、国道 1 号線がものすごく渋滞して大変困りました。そして、松並木を観光面で一生懸命宣伝している旧東海道も、国道 1 号線渋滞の影響を受けてとても混雑しまし

た。地元としては、もう1本道路を整備をして欲しいと以前からお願いしています。

それから、第2東名が道路公団の民営化問題で事業凍結かとも言われていますが、やはり日本で一番交通の多い拠点は重点的に整備をする必要があると思います。

金子 ありがとうございます。市街地と道路の問題は、どこにもある問題です。東名のような国土大幹線が中部地域や地元地域の計画としてどう位置づけられるかということも、ビジョンの大きな視点だと思います。

富田 私は、まちづくりNPOのプラス・ベータ・ネットワークの一員です。会員は25名程度で、デザイナーや写真家や建築家など、モノを作る人達のグループです。豊橋は、モノを作る人にはとても住みにくい、つらい町ですが、それでも楽しく生きていきたいと思ってまちづくりに参加しています。私達のグループは、世界で2番目に住みよい豊橋を目指して、平成5年12月からまちづくりの活動をしています。市内の公園の改修工事を行政と協力して行う、住民参加型の公園づくりをした実績があります。

私は、人が住まなくなったらまちでは無いと常々考えております。私の住んでいる花田という所は、随分前に老人会が子供会の人数を超えてしまった地域で、ご老人が多い町です。町の中心に近く便利な所ですが、町内を分断して県道が通っていますので、交通の便は良いですが向こう三軒両隣の向こう三軒とはちょっと疎遠な地域です。若者は郊外に移り住んで、住み慣れた場所に老人だけが戻ってくる状態で、独居老人が多い地域です。また、商店街の商店も少なくなり、日常の買物はちょっと不自由な所です。

花いっぱい運動を地域でやっていますが、なかなか毎日お水をやることができません。そうすると、元気なお年寄りたちが、お水をやってくれるので、綺麗に花を咲かせることが出来ます。私達若者だけが住んでいたら、きっと花いっぱい運動も続かなかっただろうと思います。高齢者と若者が一緒に住みながら繋がっていけるまちになると良いと思います。私達も明日は高齢者なので、車に乗れなくなったときに歩いてお買物したり暮らしたりできるまちを目指して、ゆっくりまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

金子 ありがとうございます。都市の中心部における高齢化の問題、そこでのコミュニティー運動、そして人との繋がりを踏まえたときに、歩けるまち、ゆったりしていただけるまち、その辺の観点が非常に重要であろうと思います。この問題は、都市の中心部に共通する問題だろうと思います。

宮川 何でも全国一律という時代はもう終わり、個性のある時代と言われています。道路についても、どこの自治体もみな道路が必要だと言いますが、もうそういう時代は終わったと思います。本当に必要な所に、投資をすることが必要だと思います。それから私は、市民参加によるまちづくりをやっていききたいと思います。何故、市民参加なのかは議論が必要ですが、これまで行政がまちづくりを担ってきて、それではやっていけない時代になってきたということだと思います。行政のサービスも、これからもっと多様化してくる。少子・高齢化ももっと進みます。それを行政だけでは担えなくて、やはり住民も一緒に担うべきだということで、市民参加が必要になっているのだと思います。

渥美町は、今までボランティアが育っていないまちだったと思います。農業と漁業の町で、女

性も老人も一緒に働きますので、なかなか地域とかまちづくりに関わるということが無かったと思います。最近、そういう芽が少しずつ出てきたかなと感じますが、まだ模索中です。

また渥美町では、NPO ネットが出来たときに、町から補助金がいただけるという話があり、NPO に関わる人材育成のためにそのお金を使うことにしました。行政は、まちづくりなどに関わる人材の育成を進めるような地域づくりを目指して欲しいと思います。

金子 ありがとうございます。地域づくりに関わる人材を育てる仕組み、それを支援する仕組みの方がまず大事だろうというご意見だと思います。次に、ビジョンの概要を説明していただきます。

司会 「まんなかビジョン」のパンフレットを用いて、ビジョンの説明をさせていただきます。

まず、パンフレットの表紙をご覧ください。私達の中部は日本の真ん中、日の丸弁当の梅干のような位置にあります。21 世紀を豊かで明るい時代にするため、皆さんのご意見をお聞きしながらこのお弁当の中味を充実した幕の内弁当に変えていきたいと考えております。

表紙の裏側にビジョンのメインテーマが書いてあります。中部が日本の真ん中であることが、今後の地域全体の発展にとって非常に有利であると同時に、日本の中で果たすべき責任も非常に重いものがあると考えます。この点を意識して、メインテーマでは日本の真ん中である地理的優位性を活かし、暮らし、産業が調和した、世界に誇れる中部の創造としました。

次に、ビジョン案では、世界に誇れる中部を目指して 7 つの大きな目標を掲げました。ローマ数字で I 番から VII 番まであります。まず、1 の標題が大きな大目標になっています。標題の下に説明と図表があります。番号では 2 番と 4 番です。図表の方は、目標に対応した現状の課題などを説明しています。

その下にアウトカム目標があります。番号は 5 番です。アウトカムとは、仕事の成果を言葉で表わしたものです。従来は、道路を作るのに幾ら予算をかけて何キロメートル作りますというような目標の表わし方でしたが、これからは仕事の成果を重視するように変えたいと考えています。

6 はアウトカム指標を例示したものです。ここでは、アウトカム目標の成果を客観的に判断するための数値目標などを例示しています。7 には、目標に向けた行動の考え方や方針のポイントをあげています。

目標の 1 番は、「モノづくりなど産業の国際競争力の強化」です。昨今、日本の国際競争力の低下が言われていますが、そういう中で中部は、今後も日本のモノづくりの中心であり続けたいと思いますし、またそうあるべきだと考えました。目標の 2 は、「世界都市を目指した名古屋の魅力向上と拠点都市のアップグレード」です。地域が発展するためには、その地域の拠点都市の活気を生み出すことによって、人が集まり、情報が集まり、物が集まって、近隣地域全体にその利益が享受されることだと考えます。それぞれの地域の拠点となる都市の発展が、地域の発展のためには重要な役割を果たすと考えました。目標の 3 は、「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」です。私達の日々の活動は交流によって成り立っており、通勤・通学のための移動や買物やレジャーなども交流の一つです。地域の経済活動を活性化し、地域発展の原動力とするため、今にも増して新たな交流の拡大が必要だと考えました。目標の 4 番は、「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」です。中部は東西の大動脈を有していますので、これを健全な状態で維持・保全しながら有効に機能させ、さらにこの大きな流れを南北軸の形成により拡大させていくことを考

えました。目標の5は、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興」です。中部には非常に豊かな自然、歴史、文化の資源があります。これらの豊かな資源を守ることがもとより、活用しながら地域発展を目指すとともに、さらには新たに創出していくことが必要だと考えました。目標の6番は、「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」です。これは私どもの生活の中で最も基本的な目標であると思います。今後、少子・高齢化は着実に進んでいきますが、まだまだお年寄りなどの方には大変不自由な生活環境を余儀なくされている現状であると考えます。豊かでゆったりとした生活には何が必要なのか、皆様のご意見をもとに充実させていきたいと考えています。目標の7番は、「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」です。日本は、非常に脆弱な国土です。急峻な河川や険しい山々に囲まれながら、さらに中部地方においては東海地震など大規模な地震が想定されるなど、多岐に渡る自然災害の危機に直面しています。尊い生命や財産を守るための備えを早急に充実させることが必要だと考えています。

金子 ありがとうございます。今概略をご説明した「まんなかビジョン」の方向や目標に関して、アンケートを行いますので、よろしくお願いします。

司会 「まんなかビジョン」の目標のうち、東三河地域で大切だと思われるものを1つ、また、中部地域で大切だと思われる目標を1つ、お手元のアンケート用紙に書いて下さい。係の者が回収しますので、よろしくお願いいたします。

金子 今、説明のあった「まんなかビジョン」は、非常に範囲の広い話ですが、国土交通省の施策のアウトプットをどうするかということだろうと思います。しかし、私どもの生活上の問題は、そういうアウトプットに関わらず、色々な問題が出てきています。最後は、国土交通省の施策をどう拡大解釈して、できるだけアイデアを盛り込んでもらうために意見を出すことによって、「まんなかビジョン」が具体的な楽しいものになっていくのではないかと思います。

但し、この「まんなかビジョン」の一連の懇談会の中で、水谷研治先生が、公共投資の予算が非常に少なくなってきた中で、色々言ってもできない、というご発言をなさっておられます。ですから、どう絞っていくのかというあたりが非常に重要にならざるを得ない。また、市民参加という課題もありますので、この辺が次の課題になるのだらうと思います。

まら、これだけの広い地域ですから、色々な施策を各地域で取り合うのは良くありません。分野またエリアなど、どこに優先順位を置くか。最終的には誰がそれを決めるのか。市民が決めていかざるを得ないと思いますので、その場合の仕組みをどうするのかということも非常に重要になってくると思います。

そういう問題を非常にローカルな問題から広域的な問題まで、どの様に解決するのかという議論とともに、どの様にそれを最終的に選んでいくのかというあたりがこの計画の難しさだろうと思っています。それでは、第2回目のご発言をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

伊藤 先ほど、高速道路並びに一般生活道路などの整備を強力に推し進めるべきではないかという意見がたくさん出ていました。私の住んでいる豊橋二川の東部は、浜名バイパス、潮見バイパスがあり、浜松駅まで約25分です。一方、今日のこの会場までも24分かかります。豊橋市民でありながら、隣の浜松に行く方が短い時間で行けるのです。静岡県の湖西方面や浜松を中心とす

る地域の道路よりも、豊橋東部のアクセス道路等の整備が遅れています。関東方面から豊橋港へ物を運ぶ車が大変増えており、その影響か交通事故を起こす車も県外の車が非常に多いそうです。折角途中まで出来ている道路が、県が違うために県境付近で寸断されています。東名高速道路が何かの影響で通行止めになった場合に、どうすれば良いのでしょうか。第2 東名もなかなか完成の目途が立たない中で、折角あるものを繋げていくような方策を、今後是非進めていただきたいと思います。

金子 ありがとうございます。県境を越えた都市道路ネットのギャップをどうするのかというご指摘だと思います。

大貝 道路整備の話で、必要な所に投資をすべきとという話は、全くその通りだと思います。要は、そういう仕組みが出来上がっていないということだと思います。だから、地域毎に本当に必要な投資は何なのかということを、下からボトムアップ型で市民の声を積み上げていく作業をやらなければいけない。結局はそこに尽きると思います。もちろん、もう少し客観的、定量的に、その必要性あるいは優先順位を評価する手法を提案していかなければいけないとも思います。

それから、先ほど東京への一極集中の話がありました。これは経済の原理からすれば、必ずそういう現象が起こります。それに対してどう地域として頑張っていくかというところが非常に大きな問題です。中部で考えれば、中部の中心にあらゆる機能が集まってしまうということ、それはまさに東三河のような地域からすると非常に大きな問題であり、地域の発展ということがなかなか目に見えてこないと思います。ですから、その辺のことを国土交通省の方でどのように考えていくかということが重要ではないか。

3 点目に、中心市街地の活性化計画は、いわゆるモノづくりの部局だけの問題ではなく、商業もある非常に幅広い、中心部の総合計画です。中心部の再生に関しては、国土交通省だけではなく、色々な省庁との連携をもう少しうまく取っていただきたいと思います。中心市街地の活性化事業についても、結局、必要なところに投資がされるのではなく、可能なところに投資がされる、できるところからやっていくということが、本当に必要なところにお金が注ぎ込まれていない結果になっていると思います。本当に必要なところにお金を投資するためには、もっと地域に密着して政策を考えていく必要がある。そのためには、住民参加型のまちづくりを地道に展開していくしかないのかなと思います。

金子 要するに市民参加の議論が必要であるというご発言だと思います。アンケートの結果が出ましたので、ご紹介します。

東三河の目指すべき方向については、98 人の回答者のうち、一番多いのが「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」で 32 票、約 30%です。2 位は、「東海地震に対応した安全・安心」で 21 票、21%。3 位は、ほぼ同数が2つあり、「モノづくりなど産業の国際競争力」と、「日本の真ん中の優位性を活かした東西軸・南北軸を行かした交流拠点、国内外交流の推進」。これが3 位、4 位でほぼ同数です。「中部の豊かな自然」が5 位。「東海環状都市圏」が6 位。お1 人ご指摘があったのが、「世界都市を目指した名古屋」で7 位です。

中部地方全体については、100 人の回答者のうち、1 位が、「モノづくりなどの産業国際競争力」で 30 票。2 位は、「日本の真ん中、優位性を活かした交流拠点」で 20 票。3 位は、「東海地震をはじめとした災害」で 14 票。4 位と5 位は、「東海環状都市圏・伊勢湾都市圏」と「誰もが生き生

き暮らせる」で12票です。

三河地域に関しては、「誰もが生き生き暮らせる」が1位、3割くらいの人が指摘しているのに対して、中部地方に関しては、「モノづくり」が1位です。2位は、三河は「地震の安全」。中部地方は「真ん中優位性をどう活かすか」です。この辺で意識の違い、方針の違いが見えるかと思います。

大貝 今の結果を見てなおさら思いました。ビジョンには、7つの目標がありますが、私は、6番、7番をもっと上の順番に持ってくるべきではないかと思います。今の地域版の結果を見ると、まさに6番が一番多く、これは当然だろうと思います。さらに、東海地震、東南海地震等の防災についても多い。もう少し、意識の上でこの辺をもっと上に上げて欲しいと思います。

金子 ありがとうございました。

菊地 この「まんなかビジョン」は、10年から20年先の中部の将来像を提言していますが、一方で東京一極集中がこのまま続いて良いのかということを強く感じます。

逼塞している経済を立て直すためには、地方が活性化しないといけないと思います。許認可関係、特に自動車関係の国土交通省とのリコールや認証の問題では、東京にわざわざ出ていかななくてはならない。こうした許認可事務が減ってくれば地方にできることが増えるので、許認可関係の緩和が地方分権に寄与してくると思います。日本の健全な発展を促すには、ある程度政治、経済、文化の地方移転が必要だと考えます。

今後、中部地区に企業が立地するに当たっても、まず国がある程度地方移転を進めるような政策を取ること。地方公共団体としても、税制面での優遇策を考えること。企業としても、そこで働く従業員にとって何が大切なのかということを考えていかななくてはならない。当社の場合、東京に人を少しずつ戻していますが、東京に転勤を命ずると嫌がる人が多い。かつて東京に住んでいた人が豊橋に住むと、東京には通勤地獄があり、住居費も高いので、もうあんな所に行きたくないという意見があるわけです。企業の立場からは、東京での企業活動は経済性が非常に良いのですが、人間らしい生活を考えれば、やはり豊かな地方で暮らすことは非常に良いことだと思います。

今後、国の政策として地方分権を進めること、地方をもう少し重視していくことが必要だと思います。20年後も依然として東京一極集中が続いているようなことでは、日本はますますダメになっていくのではないかと思います。地方の活性化が、日本経済の再生にも繋がると考えています。

金子 ありがとうございました。国、企業、そして計画の策定者も地方を尊重し、独自性を尊重した計画が必要ではないかというご指摘かと思います。

竹本 ここに出ているアウトカム目標では、企業が立地したくなるような環境を作るという目標がありますが、今の景気の状態では、企業がどんどん工場を立地するという事は非常に難しくなっています。特にこの地区では、トヨタのある西三河は別にして、東三河は活発には行かないという感じを受けます。国際競争力強化のためには、各企業が如何にすばらしい製品を作るかということに重点を置く必要があると思います。湖西の町に、アスモという会社がありますが、そ

こは今、自動車のスモールモータでは世界の28%というシェアを持っています。将来は30%を上回り、世界の自動車の3台に1台はアスモのモータをつけるんだと、そういう目標を持ってやっています。企業の大小に関わらず、そういう国際的に大きな目標を掲げて活動できるような会社を作るために、行政も大学も支援していただければ非常に良いと思います。

最近、三重県にシャープの大規模な工場を作る計画を、北川知事が決めたという非常にすばらしい話があります。いくら不景気といっても、立派な工場を誘致するようなことを皆さんよく考えて頑張っていたいただければ、地域の活性化に大きな貢献ができるのではないかと思います。

金子 ありがとうございます。モノづくり環境ということでしょうか。

富田 都心居住を進めるために全国的に施策が実施され、豊橋市でも広小路に140戸くらいの住宅ができそうです。駅前商店街の問題についても、人が住み始めれば商店も必要だし、マーケットもできる、そうすれば自然に人が集まり駅前商店街も生き返るのではないかと思います。今までに行政が作った下水等の施設を駐車場のために使うのではなく、人の住まいのために使う、インフラを有効に利用するという意味でも、都心居住は民間も含めて進められれば良いと思います。

住民参加でまちづくりを進める時に、なかなか住民に出てきてもらえません。私達の公園の時もそうでしたが、周りの住民の方に声をかけても、なかなか出てきてくれない。回状を回し、チラシを作り、電話や伺って頼んでも、参加がなかなか得られないということで悪戦苦闘しました。私達が出ていって役に立つのかなという思いもあり、住民も様子伺いをしているのではないかと思います。三重大の渡辺先生の「全国の市民参加のまちづくり」という本で、大和市でマスタープランを住民で作る時にインターネットを利用してアンケートを取ったり意見をいただいたという話がありました。私達が声をかけてもなかなか出てきてもらえないお父さんとか、学校へ行ってる子供たちが、たくさんネットに参加して意見を出したという実績があります。インターネットだけでは顔が見えませんが、意見を募集する方がそういうものを有効に使えばちゃんと住民の意見が集約できるということを、行政も認識すれば、住民も建設的な意見が出せるのではないかと思います。

金子 ありがとうございます。計画に対する市民参加の手法も含めた新しい取り組みが必要だろうというご指摘かと思います。

宮川 今の、インターネットを使ったマスタープランへの参加と同じようなことが、三重県でも県レベルで「e-デモ会議」として現在行なわれています。三重県のホームページを見ると、色々な項目に分かれており、そこへ県民がアクセスして色々な意見を出しています。会えないという話もありましたが、イベントへの参加募集も行われており、三重県は進んでいるなど感じました。

それから、「まんなかビジョン」については、先ほどから市民参加が話題になっていますが、その主旨の記述が分かりにくいと思います。敢えて探せば、13ページのローマ数字のVI番「誰もが生き生きとして暮らせる」のアウトカム目標の一番下に、「地域とのコミュニケーション活動を積極的に行います」というのがあります。この辺りに公共事業等への市民参加を積極的に進めるという主旨の記述を盛り込まれれば良いと思います。

次に、ビジョンの連携や交流という記述について、4番目の「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」と3番目の「東海

環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏」に「交流」という言葉があります。私は、交流についてはもう少し中部域内の連携・交流の促進に重点を置くべきではないかと思います。各県市町村が色々な活動していますが、どうしても自分の所のことだけを考えてしまい、他の県と一緒にやろうということがまだまだ少ないと思います。例えば、2005年愛知万博では、岐阜や三重や静岡の人に来てくださいということはあっても、一緒にやっていこうということが少ないと思います。2004年には静岡花博がありますので、鳥羽から渥美半島を通して浜松まで一緒に何か行うとか、花を一つのテーマに中部の交流・連携を図るという主旨の記述を入れられればと思います。

金子 ありがとうございます。市民参加、交流という問題が、地域を動かす、計画をする、運動をする上で非常に重要だというご指摘が出されています。これ以降は、自由にお互いに討論を交わしていただきたいと思います。

富田 開かれた学校とか言われますが、なかなか入れない学校もあります。学校などの場所に地域の人達が活動できる場所を作ることができれば、先生や親の顔も見えるようになります。相手を知ることから、色々な意見が出るようになると思いますので、そういう場所を作ることができれば、解決できる問題も多いと思います。

金子 お父さん方のように、なかなか市民活動に参加して貰えない人達に参加をしていただくためにどのようなことが考えられるか。大貝先生、ご体験からご意見をいただけませんか。

大貝 まちづくりの一番難しいところはそこです。インターネット利用については、大和市でかなり一生懸命取り組まれています。しかし、例えば豊橋の二川のまちづくりに参加していらっしゃる方はお年寄りです。お年寄りにとって、パソコンを使ったり、インターネットを使うということは難しいと思います。将来は、そういう社会になっているのですが、今の日本では、本当に1人1人にパソコンが根付いて活用されるまでには、もう少し時間がかかりそうな気がします。

さらに参加の問題では、皆さんそれぞれ色々な立場で仕事もあるために、なかなか出てきてもらえないということがあります。これは地道に、少しずつ、着実に努力していくほかはない。今のメンバーで何か成果を出して行けば、これまで参加しなかった人達もそれに興味を持って参加してくるようになると思います。現在参加していない人達も、まちに対して色々な思いをお持ちであるし、自分のまちをどうしていきたいということはそれぞれ考えている。しかし、そういうチャンスもきっかけもないので、なかなか参加しづらいという面もあると思います。私達の立場からすれば、そういうことに対して支援をして地道に努力していくしかないと思います。

金子 成果が人を呼ぶというお話でした。大貝先生のお話を踏まえて、ご発言をお願いします。

宮川 私が地元で活動している免々田川のホタルを守る会は、その流域に小学校が2つあります。その小学生たちを集めて川で体験学習などをすると、母親は一緒に参加してくれますが、父親はなかなか参加してくれません。でも、それをきっかけに、お母さんたちの輪ができることもあります。この前の夏には、「川で遊ぼう」という催しをやりました。その後で、参加されたお母さんから、「これまでは、自然体験にわざわざ遠くまで出かけていましたが、こんなに近くでもできる

んですね。」というメールをもらいました。

これまで、こうした活動や場所を知らなかったということなので、徐々に知っていただいて少しずつ広がっていくのかなと思います。

金子 ありがとうございます。

元野 市民参加について、静岡の討論会の場で非常に印象に残った発言があります。それは、市民はプロセス参加に幸福感を持つのであり、結果ではないというものです。こうしたビジョンについては、どの様な議論があって、どう変わっていったのか、理解と納得を深めていくべきじゃないかということを仰っていました。

国土交通省として、社会資本の量的な整備が今後難しくなることは十分認識しております。既存のストックをどううまく使っていくのか、という方向に政策を転換してきています。そうした観点から今回、アウトカム指標を提案しました。従来は、高速道路を何メートル作りましたとか海岸の防護率を何パーセントに上げましたという指標が多かったのですが、道路ができることによってどれだけ市民が便利になるのか、どれだけ地域が安全になるのかという指標をきちんと立てようということにしました。その点からも、今の段階から市民の方に色々な意見をいただきながら、アウトカム指標について、このビジョン討論会で議論させていただきたいと思っています。

金子 分かりやすい計画の指標を作れば市民参加の意見も出やすくなるだろうというのが一つの方向かと思います。これまでの議論の中で、私の感じたことを述べさせていただきます。

ビジョンの目標や指標が、都会的、産業的な側面が非常に強い気がします。三河で会議をしているのに、奥三河、山間地域の課題が表面に出てきていないのではないかと。この広い中部地方の中で、山間地域における問題を抱える地域はたくさんあるはずなので、共通の話題になるはずだと思います。条件不利地域の山間地域に対してどういう対処方針を持つのかを明確にして欲しいと思います。

もう1つ、非常に広い地域の中で、少なくなっていく予算を取り合うというか、優先順位をつけるということになります。どこにプライオリティを置くかというのは非常に問題であり、それも最終的には市民の意見を踏まえた上で考えていかざるを得なくなります。そうすると、このアウトカム指標や目標や施策の中に、市民の意見をどう反映させるのかという方針が、ビジョンとして非常に重要だろうと思います。地域間あるいは公共投資の分野間で、プライオリティをどうつけるのが重要だろうと思います。

伊藤 この地域に関係する問題としては、設楽ダム問題をはじめとして中山間地域の農業のあり方、また地場産業のあり方や、豊川の水問題があります。これらの問題については、中部地方の住民全員が見過ごしではならないことだと思います。

私の携わる農業では、水のおかげで渥美半島が全国一の規模を誇れるようになっていると思います。また、設楽ダムだけでなく、愛知用水や岐阜の上流部も考え方は同じだと思います。そして、国や地方行政の施策における地域振興策を、下流部の人達にも理解して欲しいと思います。上流部の住民は、日本が発展するためには、自分たちの地域を捨てる、故郷を捨てても良いという気持ちで、ダム建設を捉えています。下流部の人達にも、そういう上流部の住民の気持ちを理解した上で、中山間地域の取り組みも考えていただきたいと思います。

金子 ありがとうございます。大貝先生、目指すべき方向の、生き生きと生きるというのと東海地震については、パンフレットにおけるプライオリティが不当というご発言について補足してください。

大貝 不当とは言っていないですが、これからの社会は市民社会と言われるように、地域の生活の場を大切にしたい地域づくり、生活の視点からものを考えることが非常に重要だと思います。その意味から、V番目、VI番目、VII番目は非常に重要であり、またVII番目は、まさに生活だけでなく生産も含めて、東海地域がつぶれるかつぶれないかという話ですから全てに関わる問題として非常に重要であるという意味で申し上げたところです。

金子 ありがとうございます。菊地さん、物流や港の問題で、プライオリティに関わるご意見をお願いします。

菊地 企業としてではなく個人として考えれば、VI番が非常に重要だと思っています。例えば東京での生活と地方都市での生活との違いは、自然の中で人間らしい生活ができることだと思います。東京では、生活する上において、経済的な裏付けがあれば何でも買えるし、どんな生活でもできます。しかし、地方都市で暮らすということは、自分がどういったライフスタイルを考え、人生に対してどういう姿勢で臨んでいくかということを考えることができます。地方都市で暮らすことは、本当に人間らしい生活とはどういうものか、東京のあの混雑の中で働くことが本当に幸せなのかということを考えるきっかけになると思います。そういった点で、個人的には「豊かでゆったりとした生活環境の実現」というのは非常に大きなテーマだと思っています。

金子 ありがとうございます。

司会 ビジョンの目標には、順位をつけてあるわけではございません。I番からVII番は順位ではございません。ただまとめただけですので、そのところをご理解いただきたいと思います。

金子 7つの目標は、これで決まったわけではありません。これからの議論の対象であり、1から7の順序では必ずしもないというご発言かと思います。

聴講者 先程のご意見のように、渥美半島も静岡も中部地方を同じような考え方で開発していくのは大切なことだと思います。今までの議論の中で一番大事なことは、人間に一番必要なのは水であるという発言だと思います。ダムを作る時には、下流域と上流域の住民や行政が真剣に話し合うことが重要であり、そういう場が必要だと思います。そして、下流域の住民は、上流域の住民の立場になって考える必要があると思います。この地域で言えば、豊川の下流である渥美と上流域とのコミュニケーションが大切です。また、平野部への配水だけでなく、海を守るためには海への放流分もいただけるような地域環境がなければ地域の発展は無いと思います。

金子 ありがとうございます。上下流問題とコミュニケーションの場という、2つの大事なご指摘かと思います。

計画をしていくときには、地域の特性を生かすことが非常に重要です。また、それらを計画に反映する際、また実行する際には、市民が意見を言う場やシステムが必要であり、その重要性が今日は強調されたと思います。地域間や項目間の優先順位、あるいは予算配分についても市民の意見を反映させることのできる様な仕組みを、このビジョンの中に組み込んでいただく方向になれば良いと、今日の議論を聞いて思いました。

これで討論会のプログラムを終了いたしたいと思います。ご協力ありがとうございました。

司会 金子先生ありがとうございました。それでは、ビジョン討論会の閉会の挨拶を、主催者を代表して中部運輸局企画振興部次長の開口よりご挨拶申し上げます。

開口 本日は、東三河地区研究センターの金子様にコーディネーターをお願いし、また発言者の皆さんには長時間にわたり熱心なご討議をいただきありがとうございました。また、聴講の皆さんには長時間にわたる聴講とアンケートにご協力いただき、心よりお礼を申し上げます。

国土交通省では、個性ある地域の発展を目指しています。本日のような、より地域に根ざした対話の継続が非常に必要だと考えており、地域と一体になった政策の展開を図っていくことがきわめて重要であると考えています。本日いただいた貴重なご意見、ご提言を、中部ブロック全体の目指すべき将来像の策定に向けて反映させるとともに、今後の国土交通行政全般にわたってソフト・ハード両面において生かしたいと思います。また、本日の討論会の結果については、取りまとめの後ホームページ、もしくは地域の広報紙などに掲載し、広く地域の方々にお知らせしたいと考えています。

本日は、土曜日にも関わらず多くの方々に出席をいただき、また長時間にわたり真剣なご討議をいただいたことに心から感謝を申し上げて、「まんなかビジョン討論会」を閉会とさせていただきます。まことにありがとうございました。

以上